

沖縄県民のたたかいに勝利あれ！祈必勝・伊波洋一候補

『普天間、経済・雇用、暮らし』めぐり大激戦



11月11日 沖縄県知事選告示

「私は『県内移設』に翻弄され続けた保守県政12年に終止符を打ち、自立し発展する新しい沖縄への挑戦をスタートさせます。」伊波洋一候補の決意表明です。

経済・雇用問題で伊波候補は、普天間基地返還後の跡地利用だけで、3万2000人も雇用が生まれることを挙げ、基地によらない自立した沖縄経済発展の展望を指し示しています。これに対し仲井真知事は、本土からの企業誘致による非正規雇用の増大を誇るありさまです。

暮らしの問題で両候補の違いを象徴するのが、県立病院の存続問題で、仲井真知事が「1年半後に独立行政法人化するかの結論を出す」としたのに対し、伊波候補は「県立病院は県民の命の砦」「市場原理、弱肉強食の論理で捨て去ることは出来ない」ときっぱりしています。

「政府に対して信念を通し、毅然と対峙できる人」として伊波候補は、多くの県民の心をとらえ、期待を寄せられています。

(小林)



伊波洋一、仲井真弘多両候補まったく5分

沖縄知事選告示日の11日、今年8月平和委員会の沖縄ツアーのときにお世話になった、琉球新報社論説委員長の前泊さんに電話で状況を聞いて見た。伊波洋一・仲井真弘多の両候補全く5分5分でこれからの運動如何にかかっていると言う。私はつぎのように見たい。① 普天間基地「県内移転反対」は両候補言明している争点になりにくい。② 政党別の得票数では民主・自民・公明の仲井真氏が社民・共産・社大党の伊波氏を圧倒している。③ 5分5分と想定すると単純に考えれば、仲井真氏の保守票が伊波氏に流れることである。④ その根拠は何か。ひとつは、公共事業に群がる自民党と企業ボスの癒着利権構造に県民が鋭く批判の目を向け始めたこと。もうひとつは、基地関連収入に依存せず米軍基地返還後の跡地利用が那覇新都心や北谷町で成功しているように、基地返還後の姿が県民に明らかになってきたこと、である。この事が県民にどれだけ短期間にうちに理解されるかどうかにかかっているように思われる。

伊波候補に18万3千円のカンパを送る

このような厳しい選挙にあって伊波陣営は全県約51万世帯へのチラシ配布も財政・人手不足でままなりません。他方、仲井真陣営は全保守政党・財界バックで潤沢です。いま、全国の仲間が力を出し切り支援しています。県平和委員会も常任理事会の申し合わせで、各平和委員会のみなさんにカンパを訴えてきました。15日に17万円を伊波洋一後援会に送金しました。ご協力ありがとうございました。(伊達)



松原日出夫さん、小冊子発行

『どうして民間共有化 基地の強化と赤字のツケ どうする茨城空港』

水戸西平和の会会員の松原さんは、これまで『百里物語』『本気でやろうとしていた日本本土決戦・鹿島灘上陸に備えて茨城では』などの小冊子を発行して、愚かな戦争を憎み、平和をつよく願う気持ちから、精力的に平和委員会の活動を支えてきました。今回は、『どうして民間共有化・基地の強化と赤字のツケ・どうする茨城空港』の執筆を終え、印刷・製本に取り組んでいます。

3月に開港した茨城空港(小美玉市)は、日米共同訓練に使用されている航空自衛隊百里基地の軍民「共有」化事業として整備されました。民間機乗り入れに対応するために滑走路を1本新設。基地の滑走路の補強工事中には、新滑走路が戦闘機の訓練に使われてきました。

松原さんは、「『共用』の名目で基地機能が強化されたことは明らかだ。滑走路と滑走路の間隔は通常300mは必要だが、ここは210mしか離れていないので危険だ。民間が撤退してしまうと、それこそ百里基地専用の軍事基地になる」と指摘しています。

「危険、計画倒れ、カネ食い虫」の“3K空港”である茨城空港。「ターミナルビルへの赤字補てんや搭乗率保障制度などさらなる税金の投入を許してはならないし、自衛隊と米軍に新滑走路を使わせてはいけない」という声を県民に広げることが大切です。

定価300円60頁(但し10部以上は150円還元)

平和新聞

2010年11月15日(月曜日)
1941号(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 579

発行: 茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

沖縄ツアーで感じたこと

渡辺 吉次 (土浦市在住)

☆ **沖縄に来て**、住民を巻き込んだ戦闘が如何に悲惨であったか、改めて再認識させられた。戦時におけるアメリカの一般市民に対する殺戮は、①広島・長崎への原爆投下、②B29爆撃機による東京の無差別空爆、③そして沖縄の地上戦であると思う。特に沖縄の戦闘は、住民を軍部に動員し、そのうえ集団自決に追い詰め、多くの犠牲を出した。その残酷さは言語に絶するものである。戦後、米軍の占領下で米軍基地が拡張されている現状に接し、基地撤去の念を強く感じさせられた。

☆ **辺野古の滑走路計画**に反対する見張り小屋の幟 (のぼり) に「命を守る会の闘い」とあった。大浦湾には、海藻も魚も無数に生存している。湾を埋めて基地を作るのに反対することは、その生命を守ることであり、ひいては全ての生物の命を守ることに相通ずるという広い視野に立っている闘いの座り込みなんだと痛感させられた。

☆ **嘉手納飛行場**近くの道の駅で、2階のホールに小学生がいっぱい座って、女の先生の話聞いていた。基地の話だ。現地での社会科学習だろうか。子供たちが成長したら、基地撤去の運動が広がるに違いない。先生も、そして子供たちも頑張っているんだ・・・この状況に頭が下がる思いだ。

☆ **宜野湾 (ぎのわん) 市役所**で、伊波 (いは) 市長から普天間 (ふてんま) 飛行場の現状を聞く。一貫して飛行場の撤去を主張してきた伊波さんは、知事選挙に立候補して頑張っている。この人を何としても当選させたい。沖縄の基地が撤去されれば、日米安保条約に多大な影響を与えることになる。なぜなら、「普天間基地は安保条約の6条に基づいて置かれている。選挙の結果その基地がなくなるとは、県民の意思表示が安保の取り決めに優ることを示す」からだ。沖縄でそういう先例ができれば、日本中から外国の基地を一掃する展望が開ける。だから、沖縄知事選は日本の平和の問題でもある。

☆ **美ら海 (ちゅうらうみ) 水族館**を鑑賞した。その大きさに圧倒されてしまった。大、中、小、の魚群が他の魚を邪魔することなく悠々と泳いでいる。まさに平和の象徴だ。世界の国々も美ら海水族館の様にありたいものです。

"安保の現状"を見てみませんか!

DVD

『**どうするアンポ**

~**日米同盟とわたしたちの未来**~』

を見て話し合います。

と き : 12月5日 (日) 13:30~16:00

と ころ : 長山公民館 (多目的ホール)

主催 ; 九条の会アピールを広める会・竜ヶ崎

連絡先 Tel 0297-66-5098 石川 Tel 0297-64-5674 富山

どなたでも参加できます。お気軽に参加下さい!

宣伝チラシに対する市民の反応

沖縄と茨城の「意識のズレ」を実感

一般的には、普段沖縄の問題や安保の問題などに、関心を持ってくれる人は少なく、かなり否定的な反応が多いようです。しかし、どういう意見をもつ人にしろ、いま多くの人たちに議論をしてもらうことが、今後の平和運動を進める上でも大切なことではないでしょうか。

【寄せられた声の例】

● 水戸市の60~70代の男性から電話で、「言っていることは分かるが、実際北朝鮮や中国が攻めてきたらどうするのか。」等々。議論のための電話でした。(テレビの影響でしょうか)

○ 稲敷郡阿見町の70代の女性。「宣伝チラシを見て、とても大切なことと思い、電話した。私も、昭和14年の戦中生まれなので、小さい頃からのことを書いておこうと思っています。沖縄の人たちの苦しみを思うと胸が痛いです。」と話していました。

● 阿見町で手配りでのチラシ配布中に、年輩の男性が声をかけました。「沖縄県知事選と、ここと何の関係があるんだ?」また、「安保やアメリカの基地があったから、日本の平和は守られてきたんじゃないか」と言うものです。

『代表理事・常任理事はこんな人』

第七回目は、**常任理事・県原水協会長：加藤 岑生さん**です。



私は1944年生まれ戦後派です。父は東京での印刷屋を廃業し、疎開、戦後、東京に帰ることなく、友部 (笠間市) で精米屋を営み住みつきました。近くには広大な飛行場跡に筑波航空隊司令部などのビルがあり、悪ガキと共に入域禁止のフェンスを侵入し、司令官室の椅子に腰かけ、偉くなった気分が悦になったりして遊びました。浮浪者の掩体壕の中での割腹自殺、「花咲か公園」での首つり自殺、機銃弾解体中の暴発で体を飛散させた子供の死亡事故など戦後の混乱期の身近な思い出、そして、原水爆禁止運動の波が私たちの部落にも、母親が手に入れたヒロシマ・ナガサキ原爆被災写真集には強く心を揺さぶられました。

平和運動と原水爆禁止運動に携わっている自分の起点となっています。

奈良 達雄著

『社会進歩につくした 茨城の先人たち』

茨城には、数々の進歩と革新の伝統があります。郷土茨城の政治・社会・文化の各分野で、進歩と革新のために闘った人々の事績や不屈の精神を描く「社会進歩につくした茨城の先人たち」が出版されます。

生きる力、平和と革新への思いと力がみなぎってくる貴重な記録です。【本書の内容】

1. 「桜田門外の変」を考える。
2. 加波山事件・秩父事件の語るもの
3. 社会進歩につくした古河の先人たち
4. 「逆賊」の墓碑
5. 山本懸蔵と小林多喜二
6. 茨城における革新の伝統のなかの詩歌

青風社より、12月中旬刊：四六判・ソフトカバー
・本文224頁・定価 (本体1500+税)

